

グローバルは理由にならない

ルネサス懇

＜発行者＞
ルネサス関連
労働者懇談会
(ルネサス懇)
意見と情報は、
〒142-0043
東京都品川区二葉
2-20-8 染野ビル
(電機労働者
懇談会気付)
(03) 6421-5323

電機・情報ユニオ
ンへの相談は、



2月21日(金)に、柴田CEOとルネサスグループ連合の大谷会長との30分間のライブセッションが行われました。視聴された皆様のご感想はいかがでしたでしょうか。

柴田CEOが一方的に説明

今回の催しについて、労働組合員の多くは、柴田CEOと大谷会長との「ガチ」の議論を期待されていたと思います。しかしふたを開けてみれば、大谷会長は完全な聞き役に回っていて、柴田CEOから会社の施策の意味を説明させるという役割に徹していました。(大谷会長におかれましては、会社の仕事ご苦労様でした。30分間の給料は会社から出るのでしょうか。)

グローバルな競争を言い訳に

柴田CEOの説明の中で、半導体業界が厳しいグローバルな競争にあり、勝ち残っていかなければならないことが繰り返し強調されました。

柴田CEOは、世の中には競争の無い仕事もあると言い、保育士の仕事を例に上げました。要するに厳しい競争が嫌なら、そのような仕事をすれば良いと言いたいのでしょうか。しかし根本的な誤解があるようです。

保育士のように女性の多い仕事が一般的に低賃金なのを御存じでしょうか。例えば東京23区の場合、中堅クラスの賃金が年間平均380万円程度だとも言われます。(POSSE vol.49 ケアの市場化の果てに 12ページ参照)これでは家族の生活を支えていくのも厳しいです。

近年は保育園の株式会社化も進み、保育士同士が競争させられているという報告もあります。まさにグローバルな競争原理に巻き込まれつつあるとも言え、保育士が競争の無い牧歌的な職業であるかのように語るなど、はなはだ誤解だと言えます。

賃上げは社会的な要請

コロナ禍の経験から、私たちの賃金は、必ずしもその働きの重要性や成果によって決まっている訳ではないことに気付かされました。当時もっとも「成果」を上げていたはずの看護師等の医療従事者や、保育士などのエッセンシャルワーカーが、低賃金であることが一般的に知られたからです。

低賃金の原因には、文化的なものもあります。(保育士等の低賃金の原因については、例えば「日本の賃金を歴史から考える」金子良事著を参照。)

しかし根本的には、それらを利用する私たちの支払い能力でリミットしていることを忘れてはいけません。エッセンシャルワーカーの賃金を上げて行くためにも、みんなの賃金をベースアップで上げていく必要があるのです。

今回は労働組合としての追求を

今回、柴田CEOは、労働条件が悪ければ海外の人たちはどんどん辞めていくと言い、嫌なら辞めれば良いかのような発言をされました。また、改めて定期昇給もベアも否定しました。しかし私たち労働者の多くは、決して仕事を自由に選べる訳ではなく、安易に辞める訳に行きません。そしてだからこそ労働組合があるのです。ところが、その労働組合の会長が、社長の暴言を隣で聞き流すだけで終わりました。

会社には会社の理屈があることが、もう十分に解ったと思います。しかし労働者には労働者の理屈があります。双方は同じではありません。だからなぜ賃上げが出来ないのかを定量的に数字で説明しないと意味がないのです。「グローバル競争が厳しい」と呪文のように百回繰り返し返しても、何かを説明したことはありません。

今回は労働組合としての立場から、きちんと追求されることを期待します。